先人達の記憶

岩内古宇郡医師会
石山内科循環器科クリニック　石山（いしやま）晶子（あきこ）

年女ということで原稿の依頼を受けました。河﨑秋子さんの「父が牛飼いになった理由」を読み、刺激されて岩内町に移ってきた先祖のことを書き綴ることにしました。

父方の曽祖父が石川県能美郡西二口から移住しました。家業の綿織物工場の衰退を憂い北海道岩内町に単身渡り、数年後曽祖母が４人の子供を連れやってきたそうです。その頃、鰊がよく取れたようで水産加工業と漁業でかなり大がかりに仕事をしていたようです。その後、祖父が仕事を継いでいましたが、戦争のさなか、長男（私の父）次男は東北薬学専門学校、戦後、三男は東邦大学医学部に入学させました。

母方の曽祖父は西二口の隣の中ノ江出身で金沢の旧制第四高等学校に入学し、医師になろうとしましたが、農家で学費が続かず、陸軍士官学校に進み陸軍大佐で退官、日本農士学校の理事長になり戦後まで務めました。その学校にインド独立で奔走したチャンドラ・ボースも来ていて、親交を結んだようです。祖父は父方の親族で、海軍中将、清水高等商船学校の校長でした。母は東京で生まれ、幼少時より、井口基成さんに師事し、東京芸大のピアノ科を目指しておりましたが戦争で東京芸大は混乱しており、帝国女子医学専門学校に入学しました。なじめなかったのか、生物学科に転科し卒業いたしました。父方の親族であった父が、東京まで、薬学の本を購入のため、仙台・東京を行ったり来たりしていて知り合ったそうです。昭和26年に結婚し、岩内町で薬局を開きました。後に、地の果てまで来たと、母は述懐しておりました。母は頼まれて、ピアノを教え始め、ピアノ教室を開きました。北海道教育大学札幌分校の特別教科（音楽）や、札幌大谷短期大学の音楽科に生徒を入学させておりました。

昭和29年４月に私が生まれ、９月26日に岩内大火で全町の市街地の８割が焼け（3,298）戸、御崎にあった薬局も全焼、宮園にあった祖父宅に生まれて５か月の私と２歳の姉が避難したのでした。その火事で祖父も新造船を一隻失いました。戦時中、軍に船一隻徴用され、さらに敗戦で戦時債権も紙くずとなりました。祖母が心臓病で急死し、三男を医師にしようとしたのですが、日々の糧を失って大変だったと思います。東京の母方の祖父は心を痛め、東京での父の就職先も見当をつけ岩内町にやってきましたが、何とか岩内町の復興を支えること、また長男でしたので弟妹の面倒をみるのを、父が決心したため、東京に戻りました。そんなことの苦労がたたったか、母が甲状腺乳頭癌になり、東京大学病院に行き、藤本吉秀先生に手術していただきました。中々療養に時間がかかり、私は３年間、東京の母の実家に預けられていました。術後、アイソトープ治療で、東京に通っておりました。

諸先生方の尽力により、85歳まで生存できましたので、感謝いたします。いろいろな事がありましたが、私と夫は40歳の時、曽祖父の家のあった処に開業した次第です。

開業後、夫の父親の死、私の両親の相次ぐ病気と中々大変でした。

６年前よりクリニックの裏に30坪くらいの空地が放置してあったのを開墾し家庭菜園にして、春になると野菜を作ったり、花を愛でて、楽しんでおります。岩内山が正面に見え、見晴らしもよく、気持ちが晴ればれします。16年前よりFood Protein Induced Enterocolitisで、卵を完全除去しているため、食事を作るのが、結構大変でしたが、慣れました。野菜は春から秋にかけ、無農薬野菜を作るため、安心です。お菓子もほとんど食べなくなり、かえって元気になった感じです。結局、病気になって感じたのは、食生活がやはり、病の原因なのだということでした。

今、困っているのは町で70年前よりやっていた本屋さんが、閉店したことです。本好きの人達は皆、困っています。こうやって、地方は衰退していくのでしょうか。

本会では、例年新年号に「新春随想」を企画し、年男・年女に当たられます会員諸氏より無作為に選定させていただき、執筆をご依頼申し上げております。

時節がら、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

北海道医師会会員数は、男性6,961名・女性1,126名の合計8,087名（12月５日現在）。そのうち午年生まれの会員は別表のとおりです。

◇情報広報部◇

（名）

	男性	女性	合計
36歳	34	6	40
48歳	86	26	112
60歳	175	15	190
72歳	197	14	211
84歳	52	2	54
96歳	12	2	14
合計	556	65	621